

有料会員限定 記事 今月の閲覧本数： 10 本中 1 本

ワサビ栽培、シェアオフィス 変わる地域金融の現場

地域金融 金融機関 地域総合 中国 静岡 山口

2020/11/9 2:00 | 日本経済新聞 電子版

保存 共有 印刷 共有 印刷 共有 印刷

少子高齢化や地域経済の衰退、超低金利で地域金融機関の経営環境は厳しさを増している。一方で規制緩和が進み、多角化で農業などの新規ビジネスを立ち上げたり、店舗の空きスペースを活用して収益を得たりする動きが広がる。山口県、静岡県、大阪府の地域金融機関のユニークな取り組み取材した。

■ワサビ栽培や英会話教室 (山口フィナンシャルグループ)



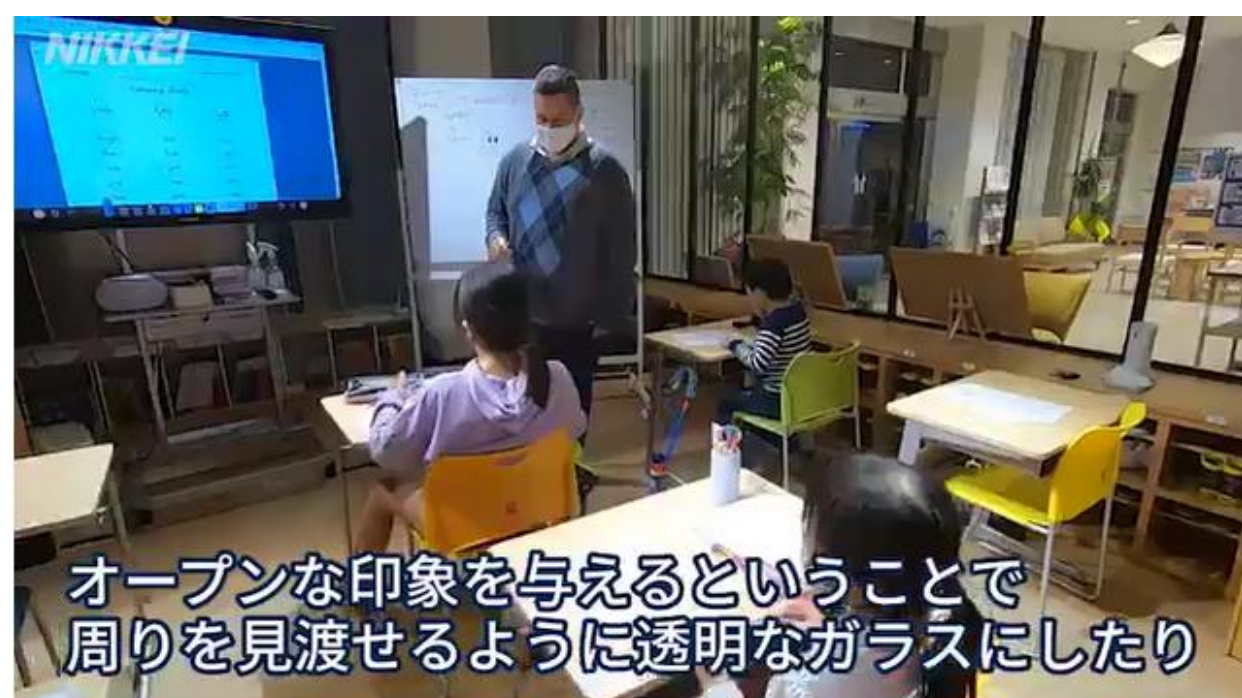
山口FGの変化は営業店にも表れている。「Yes,I do!」。山口銀行徳山西支店（山口県周南市）の一角からは子供たちの元気な声が響く。7月に住宅ローンの相談スペースを改装し、地元の英会話教室が賃借して開業したのだ。教室のガラス越しには銀行の支店部分も見渡せる。小学2年生の保護者は「毎週送迎で来るので、窓口に置かれたライフプランなどの資料を手取ることもある」と話す。



同支店の河村文武支店長は「周辺には学校や幼稚園が多く、子供たちは通いやすいと思う。地元の金融機関を身近に感じてもらえれば」と期待する。業務の効率化で空いたスペースの有効活用策で他の支店では飲食店、保育施設の併設もある。



子供たちの明るい声が響く



オープンな印象を与えるということで
周りを見渡せるように透明なガラスにしたり



英会話教室を運営する
門出 健司 社長

オープンな印象を与えるということで
周りを見渡せるように透明なガラスにしたり



共有スペースをたくさん設けて
銀行の客も英会話教室の子供も交わるように